

学習内容報告書 フォーマット

学校名	岩手県 矢巾町立不動小学校
授業者	多田 滋 高橋 悦子 吉岡 裕晃

1. 単元計画

実施した活動内容に基づきご記入ください。

1-1. 単元名

地球温暖化を防ごう隊

1-2. 学年

5年生

1-3. 教科（単元を実施する教科を全てお書きください）

総合的な学習の時間

1-4. 単元の概要

6月	地球温暖化を防ごう隊の結成・・・オリエンテーション
7月	海洋教育講演会・・・・・・・・・・ケンタロ・オノ氏による講演会 講演会を聴いて・・・・・・・・・・振り返り
8月	課題研究に向けて・・・・・・・・・・事前学習・グループ編成
9月	課題研究に向けて・・・・・・・・・・課題設定
10月～2月	課題研究 教室 図書室 PC室 各グループ研究 情報収集 実地調査 情報の整理 発表資料作成 発表練習等
3月	海洋パイオニアスクール課題研究発表会 6グループによる研究発表会

1-5. 単元設定の理由・ねらい

地球温暖化について、高学年では理科や社会の単元において授業で取り扱っているが、ともするとそのような学習内容については、実生活とは遠いものと思われがちであった。しかし、近年、異常気象等による災害が頻繁に身近に起こることにより、私たちにとっても重大な問題であると意識が変わってきた。何が問題なのか、それを解決するために、何をどのように学び、何ができるようになるればよいか、海洋学習の視点から問題解決学習に取り組む。

1-6. 育みたい資質や能力、態度

1 具体的な活動や体験を通して、情報を収集し、その情報を整理することができるようにする。
2 学習を通して、問題を自分との関わりで捉え、生活と関連づけて考え表現することができるようにする。
3 自分のできることを考え、提案し行動することができるようにする。

1-7. 単元の展開（全 時間）

時 数	学習活動・主な内容	教師の指導 / 主な評価 外部連携 / 使用教材等
1	オリエンテーション	学習の目的・学習方法・学習計画 使用教材 自作 プレゼンテーション資料
2	海洋教育講演会 「国がなくなる！ キリバス共和国と地球温暖化」 講師 ケンタロ・オノ 氏	ケンタロ・オノ氏を招いての講演会 評価：講演を聴いての感想を作成
2	事前学習とグループ編成	グループ編成 課題設定のための協議 使用教材 学習プリント
17	課題研究 ○情報収集、まとめ ○発表資料作成 ○発表練習	情報収集指導 インターネット活用、野外実地調査 プレゼンテーション作成指導 発表指導
2	海洋パイオニアスクール 課題研究発表会 6グループによる発表会	6グループによる発表会 助言者（リモートによる助言） 東京大学大学院教育学研究科 特任講師 田口 康大 先生 東北大学大学院理学研究科 教授 須賀 利雄 先生
1	学習の振り返り	単元 地球温暖化を防ごう隊 学びの振り返りを行い感想にまとめる

2. 学習活動の実際

実施した単元中のキーとなるような時間（導入の時間・主となる活動の時間・まとめの時間など）の学習内容をご記入ください。また、複数の時間についてご記入いただける場合には、この項目をコピーして複数記入していただいて構いません。

2-1. 単元における位置づけ

単元 時間中の 時間目

※例：単元 10 時間中の 2 時間目 / 単元 15 時間中の 4, 5 時間目

2-2. 本時の目標

- ・内陸にある矢巾も、地球規模で考えると島国日本の一部であり、海と関わっていることを理解する。
- ・地球温暖化は、矢巾町にすむ私たちにとっても重要な問題であることに気づく。
- ・地球温暖化について海洋学習の視点から、問題解決学習に取り組むための意欲を高める。

2-3. 本時の展開

主な学習活動 / 反応	教師の指導・支援 / 評価の視点（方法）
導入	
1 なぜ矢巾町で海洋教育を行うのか理解する	○日本地図、世界地図を通して、矢巾町も島国日本の一部であることを確認させる。 ○海は私たちの生活に深く関わっていることを理解させる。
展開	
2 日本や矢巾町を見舞う自然災害について学ぶ	○近年の異常気象や矢巾町が経験した豪雨災害について振り返りを行い、地球温暖化が原因である可能性が高いことを確認する。
3 地球温暖化によって困っている国について学ぶ	○海面上昇により国土が沈む危機に貧している国があることを知る。
4 研究課題の設定	○研究課題を設定する
まとめ	
5 自分自身の未来として考える	○自分の未来として具体的に考える。 ○具体的な研究方法について確認する ○自分が具体的にできることを考える。

3. 今回の活動の自己評価

計画では、海洋教育の先進地区である岩手県洋野町や宮城県気仙沼市の学校と交流する予定であったが、新型コロナウイルスのために、計画変更を余儀なくされた。

初期段階での、ケンタロ・オノ氏の講演会は、児童の学習意欲を高め、大きな成果であった。

当初計画した研究課題について、6つのグループで進め、交流を行うことができたことは大きな成果であった。また、計画を変更しリモートによる海洋パイオニアスクール課題研究発表会を行うことができたことも大きな成果であった。

東京大学の田口康大先生、東北大学の須賀利雄先生にも多大な協力をいただき、今後の活動への助言をいただいた。また、来年度は岩手大学との連携も視野に入れている。

4. 今後の課題

学校の年間計画にどのように位置づけていくか。また、助成がない場合、どのように予算措置を講じるかが課題である。

5. 本学習内容報告書活用にあたっての留意点

特記事項無し

※実施した单元ごとに作成してください。

※写真、画像、図表等の使用可。必要に応じて記入欄やページ数を増やしても構いません。

※基本レイアウト

フォント：MS 明朝、10.5 ポイント / マージン：上下端 20mm、左右端 16mm

※ファイル名は「学習内容報告書_学校名」とし、複数提出する場合は学校名の後に数字を記載してください。

例：学習内容報告書_海洋市立パイオニア小学校 1

※年間指導計画（年間の指導計画における単元の位置づけが分かる資料）があれば別添資料として提出してください。フォーマットの指定はありません。